

2023年3月期第1四半期 決算説明資料

株式会社フレアス

2022年8月

東証グロース：7062



- 2023年3月期第1四半期決算発表が遅れ、株主を始めとする多くのステークホルダーの方々に多大なるご迷惑とご心配をお掛けしましたことを心よりお詫び申し上げます。
- 今回の当社従業員の不正行為による連結業績への影響は、限定的であるため、過年度の決算の訂正は行わず、今年度（2023年3月期）第1四半期にて、売上高 6,647 千円、営業利益 6,647 千円、経常利益 6,647 千円、四半期純利益又は四半期純損失 4,659 千円を反映しております。（※本資料も反映しております）
- 本件不正行為を厳粛に受け止め深く反省するとともに、当社グループ全体の内部統制の充実・強化及びコンプライアンス遵守の意識徹底を図ることにより、再発防止と信頼回復に、全力を上げて取り組んでまいります。

- **2023年3月期第1四半期 決算概要**
- **トピックス**
- **Appendix**



2023年3月期第1四半期 決算概要



コロナ第7波の影響を受けつつも増収。先行投資による減益

2022年3月期	(百万)	増減率
売上高	1,102	前年同期比 +7.2%
営業利益	0	前年同期 ▲99.0%

グループ拠点数の進捗は堅調

	2022年3月期末	2023年3月期1Q	増減数
グループ拠点数 (直営店含む全店舗数)	365	372	+7

新規事業の取り組み

- ・看護小規模多機能型居宅介護事業は新規開設予定4拠点
- ・2024年3月期にホスピス事業を開始予定



コロナ第7波の影響を受けつつも増収。先行投資による減益

決算概況

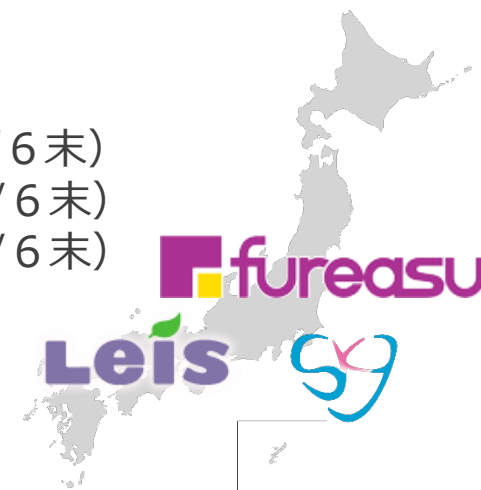
- 新型コロナウイルス第7波の影響を大きく受けたものの、グループ全体での利用者の増加や看護小規模多機能型居宅介護の新規開設等により前期比**7.2%増**の**1,102百万円**
- 看護小規模多機能居宅介護施設3月に千葉へ開設した1号店の開設に伴う赤字及び7月に水戸に開設した2号店の開設コストにより**営業利益**は前期比**99.0%減**の**0百万円**を計上。

1Qの取り組み

- マッサージ直営事業では、高頻度でのサービス提供の推進を継続し、利用者1人当たり月間利用回数・施術者1人当たりの施術回数が高水準を維持。
- フランチャイズ事業においては、営業強化のため増員。

拠点展開

- 在宅マッサージ拠点数 **327拠点** (2021/6末) ⇒ **361拠点** (2022/6末)
- 訪問看護 拠点数 **6拠点** (2021/6末) ⇒ **8拠点** (2022/6末)
- 訪問介護 拠点数 **2拠点** (2021/6末) ⇒ **2拠点** (2022/6末)
- 看護小規模多機能型居宅介護施設 **1拠点** (2022/6末)



2022年3月期決算の概要

- 新型コロナウイルス第7波の影響を大きく受けたものの、グループ全体での利用者の増加や看護小規模多機能型居宅介護施設の開設等により、売上高は前期比**7.2%の増収**。
- 看護小規模多機能型居宅介護事業による先行投資や新卒採用等により営業利益は前期比より大幅な減収。

(百万円)	2022/3期	2023/3期		対前年同期比	対通期予想 達成率	
	1Q実績	1Q実績	上期予想			通期予想
売上高	1,027	1,102	2,390	5,129	+7.2%	21.5%
売上原価	515	557	1,154	2,475	+8.2%	22.5%
売上総利益	512	544	1,236	2,653	+6.3%	20.5%
販管費	444	543	2,499	2,499	+22.2%	21.8%
営業利益	67	0	37	154	▲99.0%	0.4%
営業外収益	2	5	0	29	+94.5%	18.3%
営業外費用	2	1	1	4	▲34.0%	45.0%
経常利益	67	4	36	180	▲93.7%	2.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	51	-2	9	93	▲105.6%	▲3.1%
1株当たり当期純利益	22.17	▲1.23	3.91	39.88	▲105.6%	▲3.1%
売上高総利益率	49.8%	49.4%	51.7%	51.7%	▲0.4%	—
営業利益率	6.5%	0.1%	1.6%	3.0%	▲6.4%	—
経常利益率	6.5%	0.4%	1.5%	3.5%	▲6.1%	—

四半期別業績推移

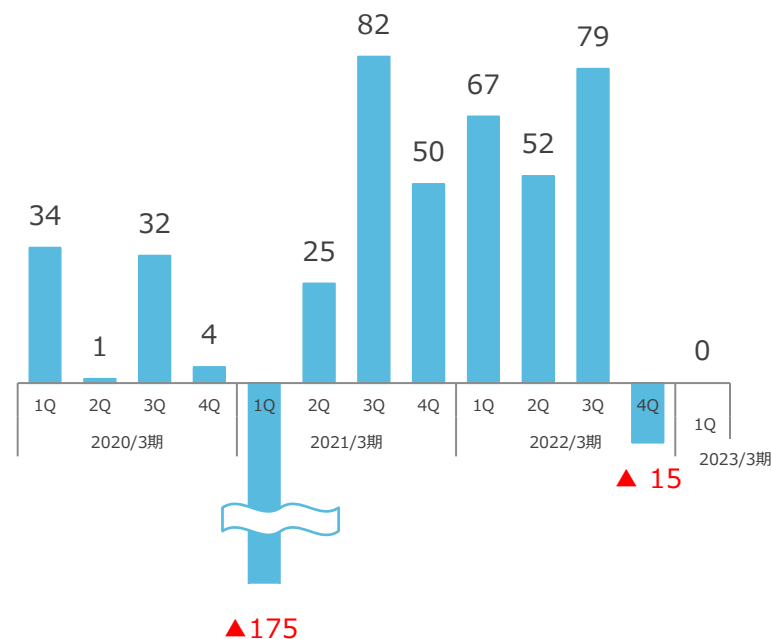
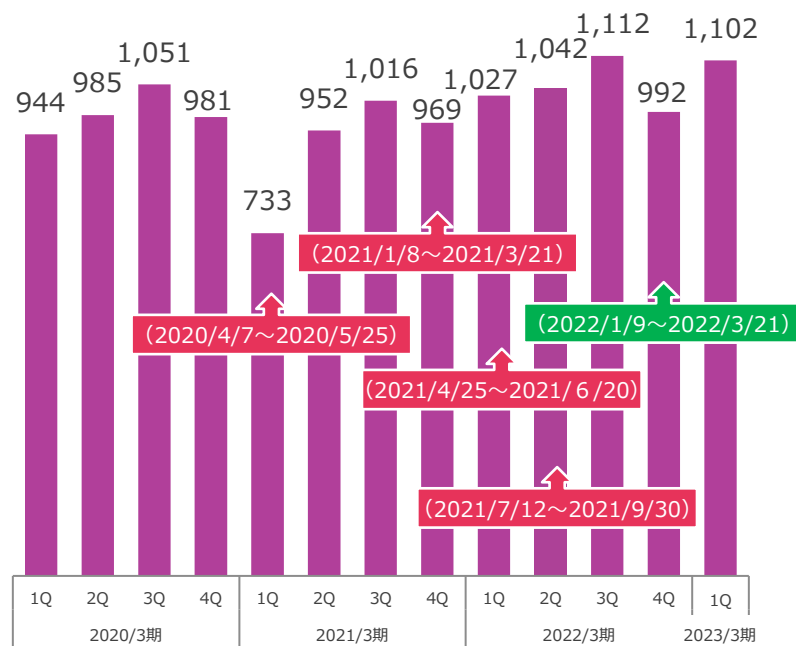
- 新型コロナウイルス第7波による影響を大きく受けたものの、前年度4Qからは売上高・営業利益共に回復傾向。

売上高

営業利益

(百万円)

(百万円)



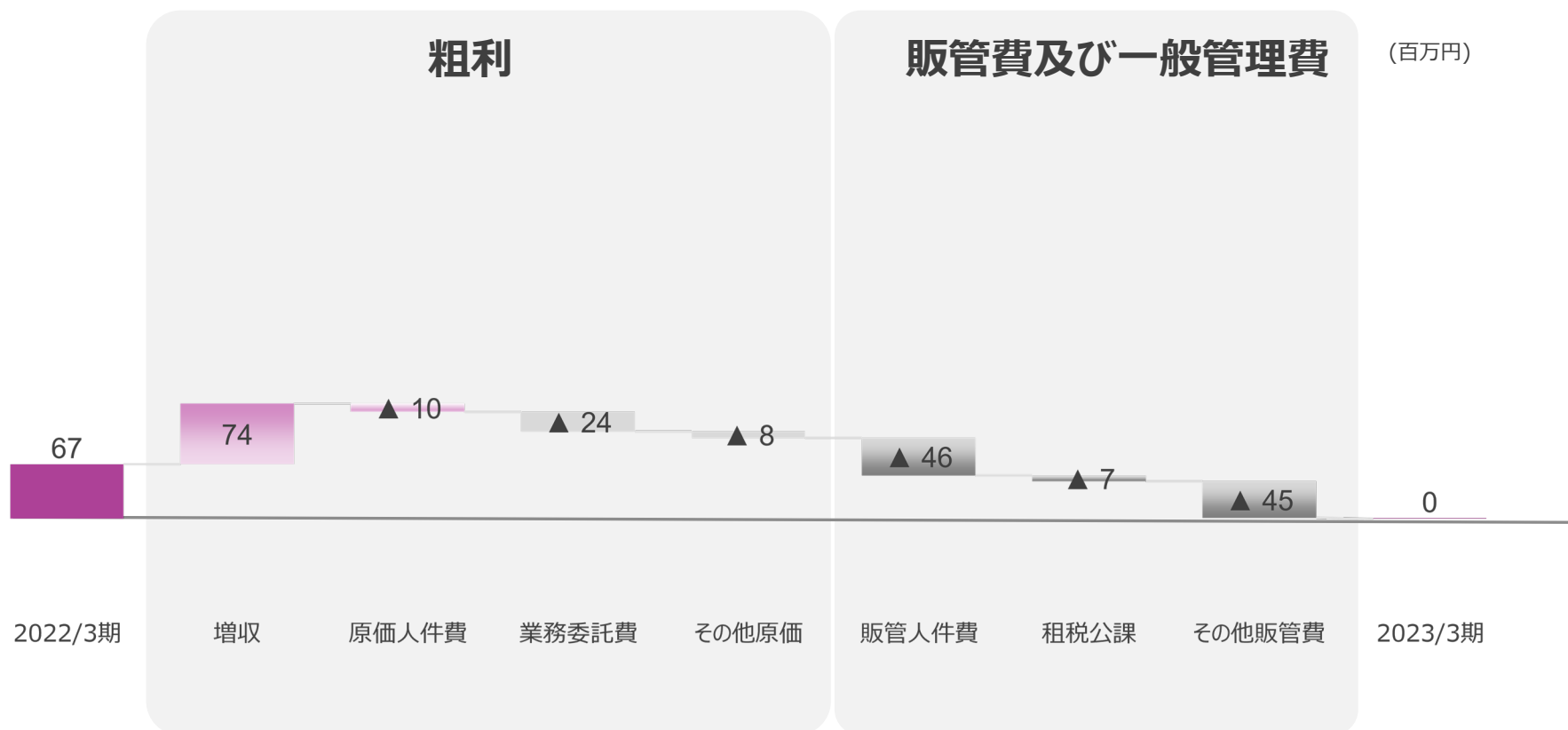
東京都における緊急事態宣言期間

東京都におけるまん延防止等重点措置期間

※全て東京都の緊急事態宣言期間になっております。

2023年3月期 営業利益増減要因（前年同期比）

- 看護小規模多機能型居宅介護開設、訪問看護事業強化に伴い、売上高が増加。
- 看護小規模多機能型居宅介護事業に関わる人員体制強化を主な理由とした販管費の増加。



2023年3月期決算（セグメント）

- マッサージ直営事業は、高頻度でのサービス提供を維持、前年同期比**1.3%の増収**だが、新卒関連のコストにより減益。
- マッサージフランチャイズ事業は、ロイヤリティ収入が堅調に推移するも、投資額を抑えたプランの開設数増加による影響や、営業人員増による減益。
- 訪問看護事業は、既存店の利用者増に加えて新規拠点の利用者増も寄与し増収も、人材コストによる減益。
- 看護小規模多機能型居宅介護事業は、先行投資により営業損失計上。

(百万円)	2022/3期	2023/3期		対前期比	対直近 予想比	
	1 Q実績	1 Q実績	上期予想			通期予想
売上高	1,027	1,102	2,390	5,129	7.2%	21.5%
マッサージ直営	804	814	1,735	3,588	1.3%	22.7%
マッサージフランチャイズ	139	155	379	841	11.7%	18.5%
訪問看護	83	113	214	466	35.3%	24.3%
看護小規模多機能型居宅介護	—	18	61	232	—	7.9%
営業利益	67	0	37	154	▲99.0%	0.4%
マッサージ直営	198	187	423	922	▲5.5%	20.4%
マッサージフランチャイズ	44	37	111	275	▲16.6%	13.6%
訪問看護	▲9	▲4	▲11	12	▲54.9%	▲34.9%
看護小規模多機能型居宅介護	—	▲21	▲54	▲147	—	14.3%
調整	▲166	▲199	▲431	▲908	19.5%	22.0%
総レセプト数（件）	8,369	8,903	9,843	9,785	+534	—
マッサージ年間利用回数（回）	163,304	166,405	350,734	725,501		
マッサージ拠点数（FC含む）	327	361	379	399	+34	95.0%

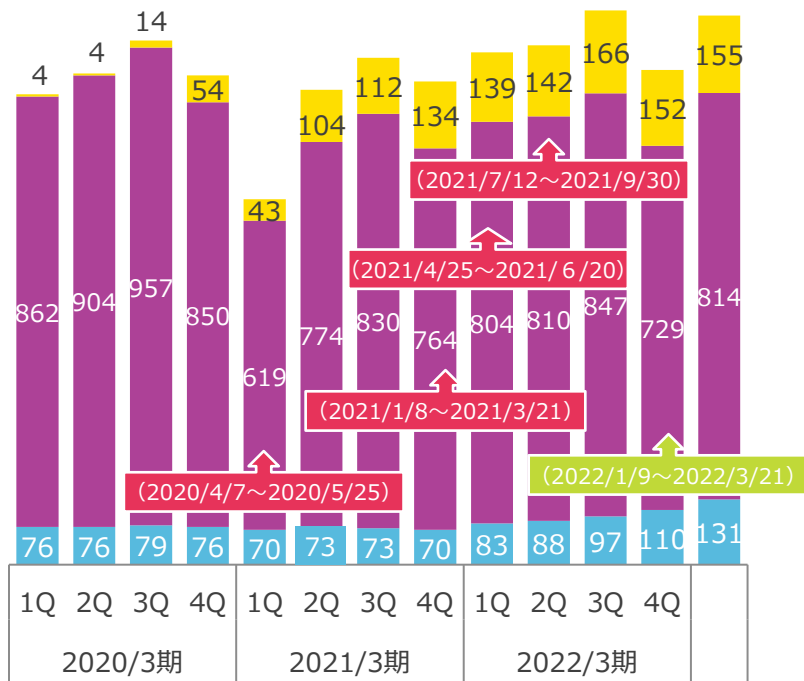
※期末総レセプト数は、保険適用のマッサージ+鍼灸サービスの数値を記載しております。 ※利用回数は鍼灸サービスに係る回数を除く
 ※期末総レセプト数及びマッサージ年間利用回数は、マッサージ直営事業における数値を記載しております。 ※開示上のその他の事業のセグメントを訪問看護と看護小規模多機能型居宅介護に分けて表記しております。

四半期別セグメント業績推移

- マッサージ直営事業は、新型コロナウイルス第7波の影響を受けつつも、前期第4Qに比べて売上が回復傾向にある。
- その他セグメントの売上が増えつつある一方で、今後の開設に向けた先行投資も増加。

売上高

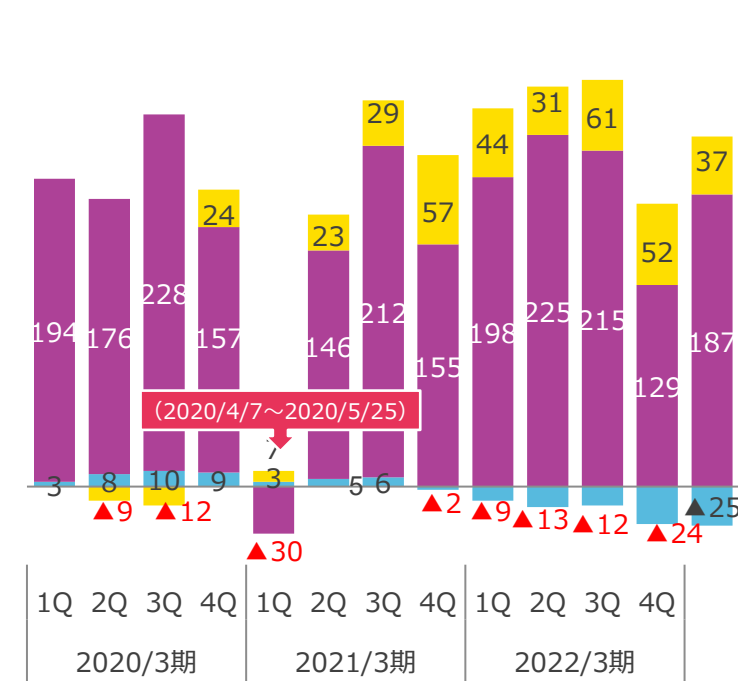
(百万円)



営業利益

(百万円)

■ その他 ■ マッサージ直営 ■ マッサージフランチャイズ



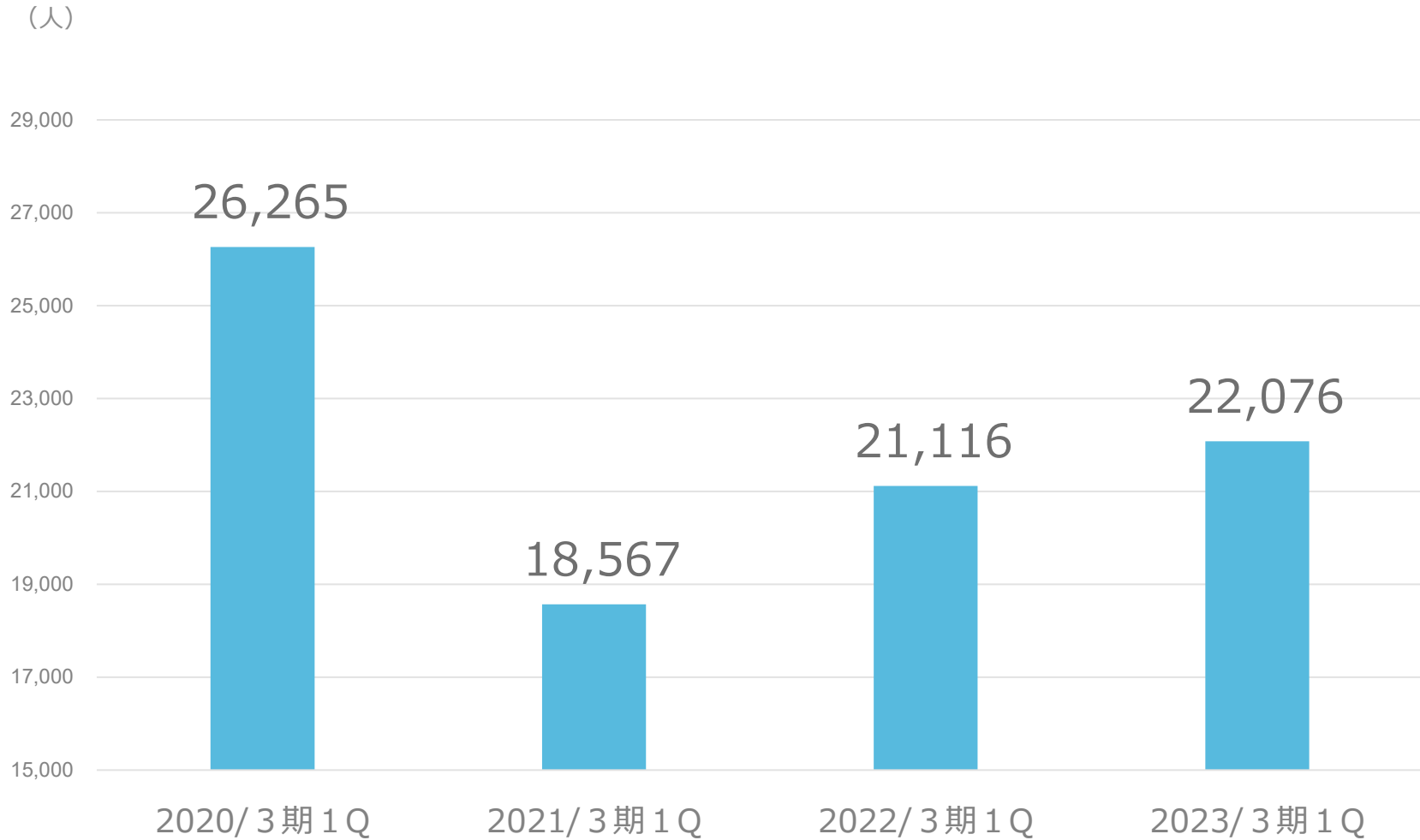
東京都における緊急事態宣言期間

東京都におけるまん延防止等重点措置期間

※全て東京都の緊急事態宣言期間になっております。

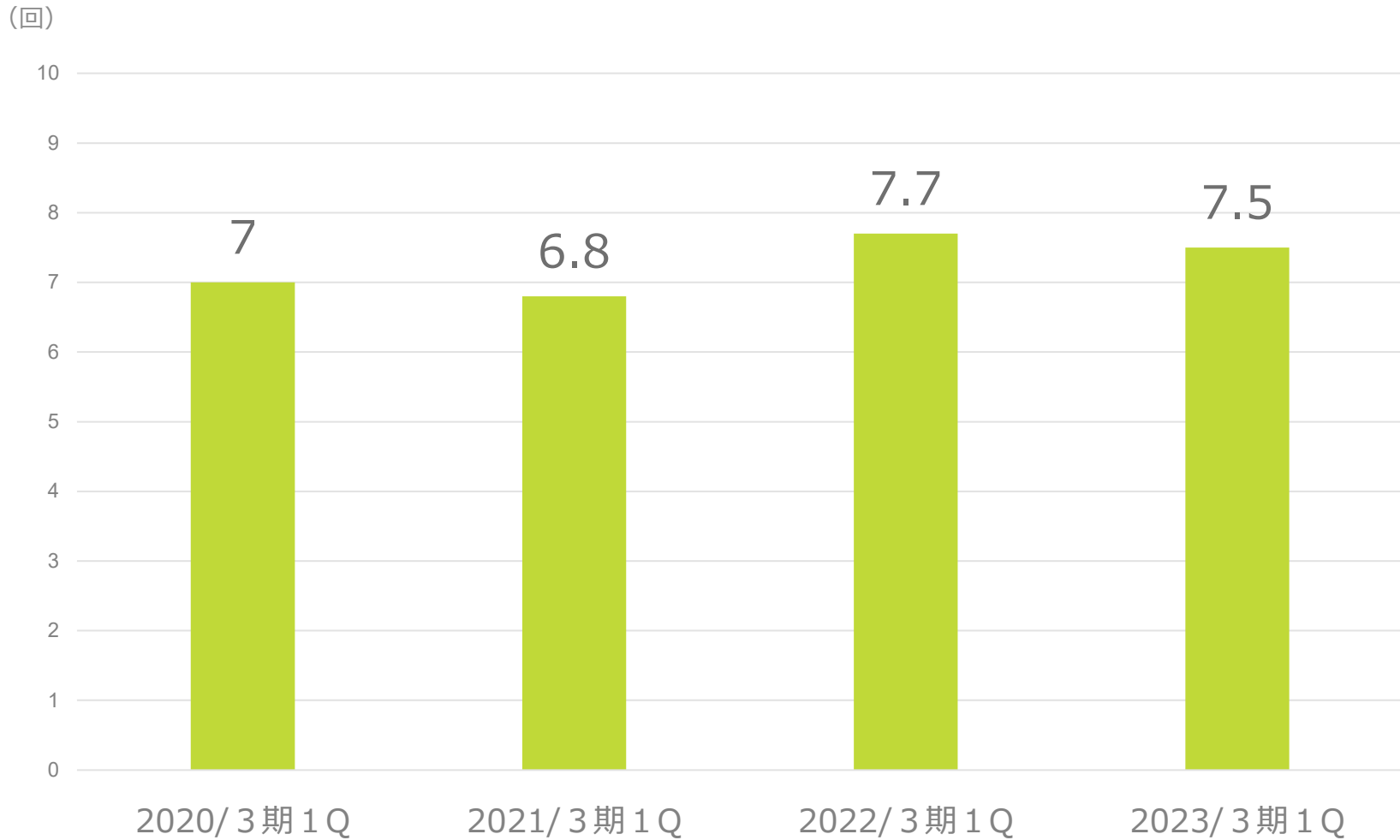
KPI：1Q累計利用者数 推移

マッサージ直営事業



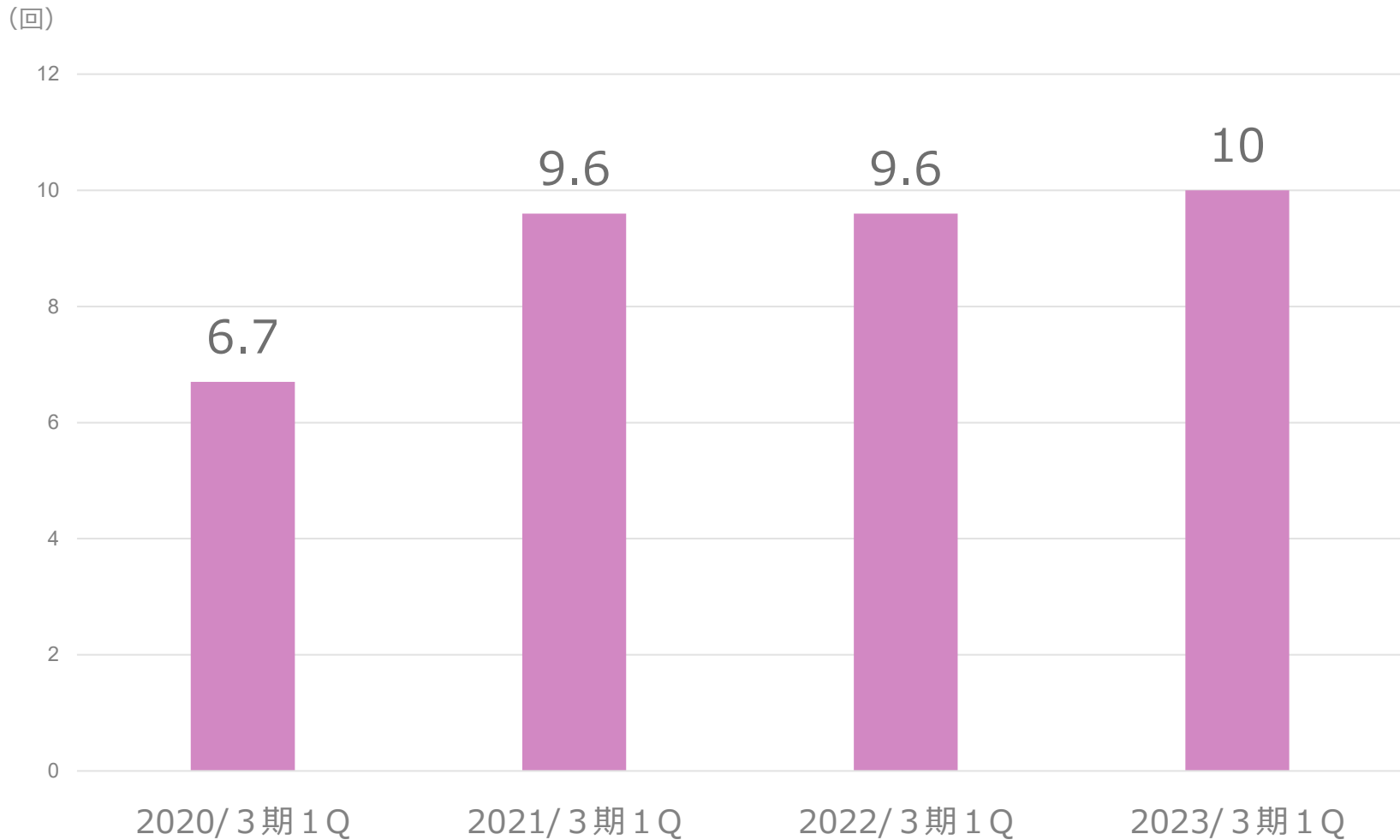
KPI：1Qの利用者1人あたりの月間利用回数

マッサージ直営事業



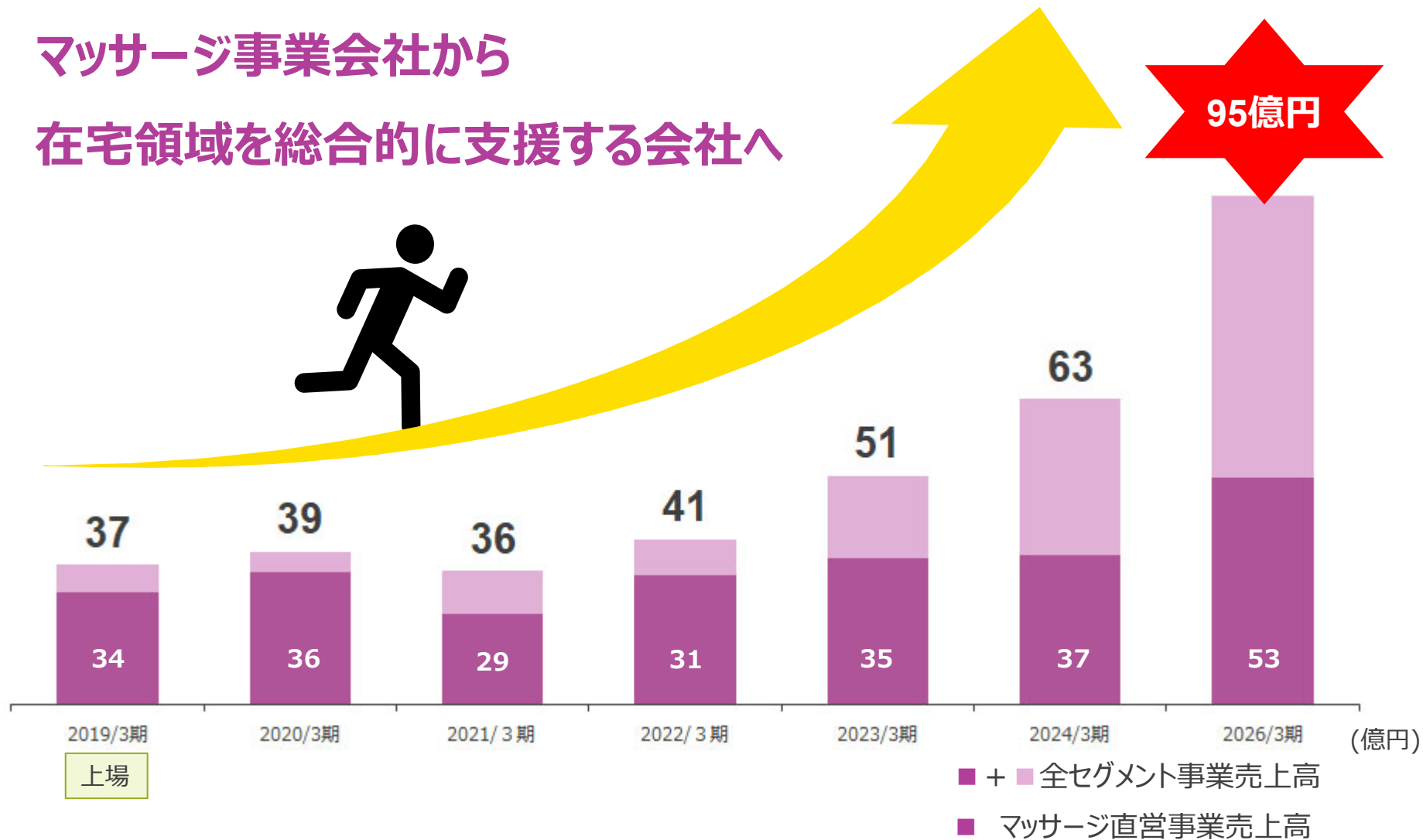
KPI：1Qの施術者1人あたりの1日の施術回数推移

マッサージ直営事業



全セグメント 売上高推移

マッサージ事業会社から
在宅領域を総合的に支援する会社へ



上場

(億円)

2023年3月期1Q 拠点数

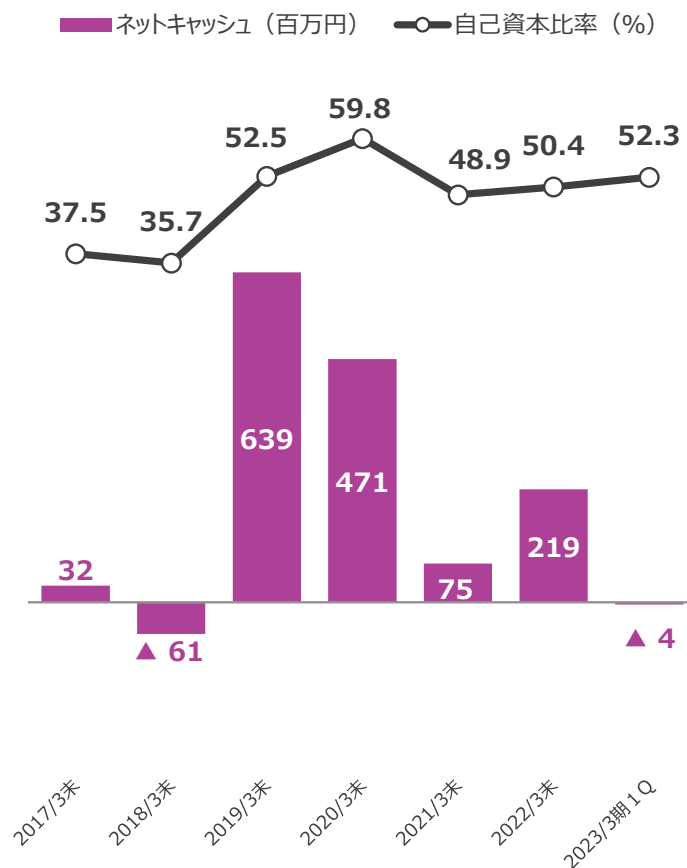
- 「フレアス在宅マッサージ」のフランチャイズ新規開設数が14拠点。
- 9拠点の純増により、2023年3月期1Qフランチャイズ加盟店数は、278拠点となる。

	2022/3月末 拠点数	2023/3月1Q 拠点数	2023/3月末 計画	2022/3月末 増減数	2023/3月計画 達成率
在宅マッサージ	354	361	399	+7	18%
うち直営店	85	83	84	▲2	—
うちフランチャイズ 加盟店	269	278	315	+9	20%
訪問看護	8	8	8	—	—
訪問介護	2	2	2	—	—
看護小規模多機能 型居宅介護	1	1	5	—	—
合計	365	372	414	+14	29%

バランスシートの状況

- 主に税金の納付や株主配当の実施により現預金が減少し、ネットキャッシュが▲ 4百万円に
- 自己資本比率は52.3%と健全

(百万円)	2022/3末	2022/3期1Q	対前期末比
流動資産	2,600	2,429	▲164
現預金	1,214	868	▲354
売掛金	953	1,058	+111
固定資産	789	799	+9
有形固定資産	138	139	+1
無形固定資産	542	547	+5
資産合計	3,390	3,228	▲155
負債	1,671	1,526	▲142
有利子負債	995	910	▲84
純資産	1,718	1,701	▲12
負債純資産合計	3,390	3,228	▲155



※ネットキャッシュ (ネットキャッシュ = 現預金 - 有利子負債)



トピックス



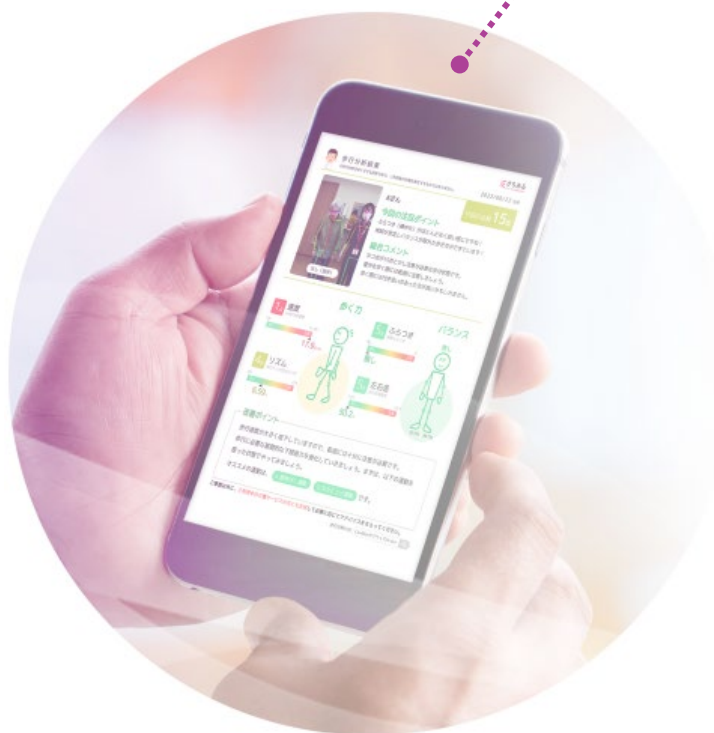
トピックス ① マッサージ直営事業のDX化

- 歩行解析から顧客にあったマッサージ提案が可能な「CareWiz トルト」のOEM提供を開始

スマホ1台
あれば測定可能

在宅医療・療養向け AI解析・課題提案ツール

 さちある
トルト for MASSAGE



フレアスよりコメント
+
トレーニングシート

項目によって
点数が出る
(20点満点)

トピックス ② 看護小規模多機能第2号店開設

エリアを見極めながら新設を推進

看護小規模多機能型居宅介護施設数



2022年7月
2号店水戸に開設！



フレアス看護小規模多機能水戸

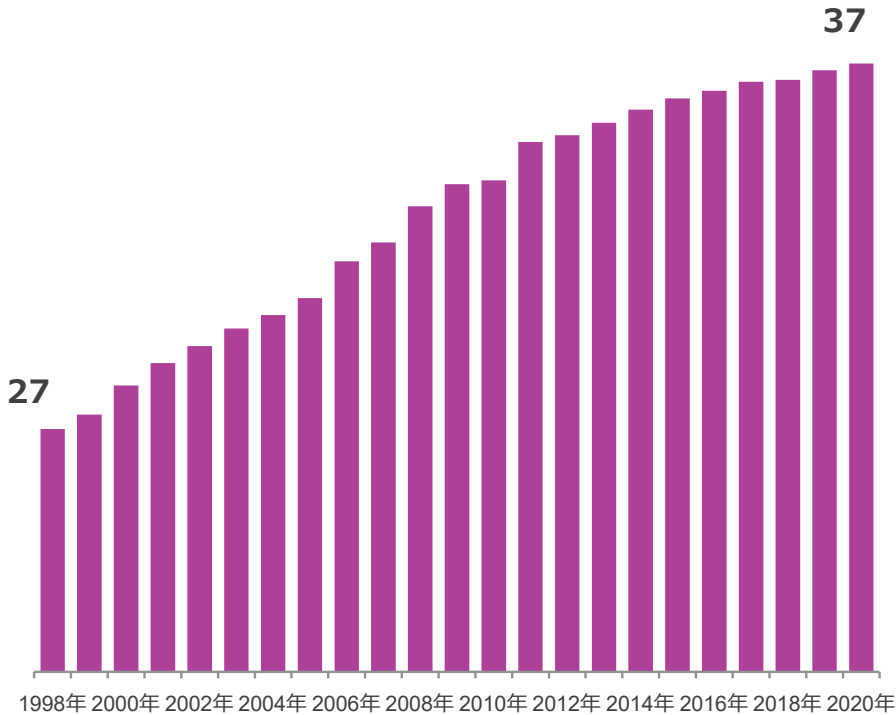
在宅マッサージ
拠点との複合型

ホスピスマーケット 対象者は増大していく

がんの死亡者数の推移（1998年～2020年）

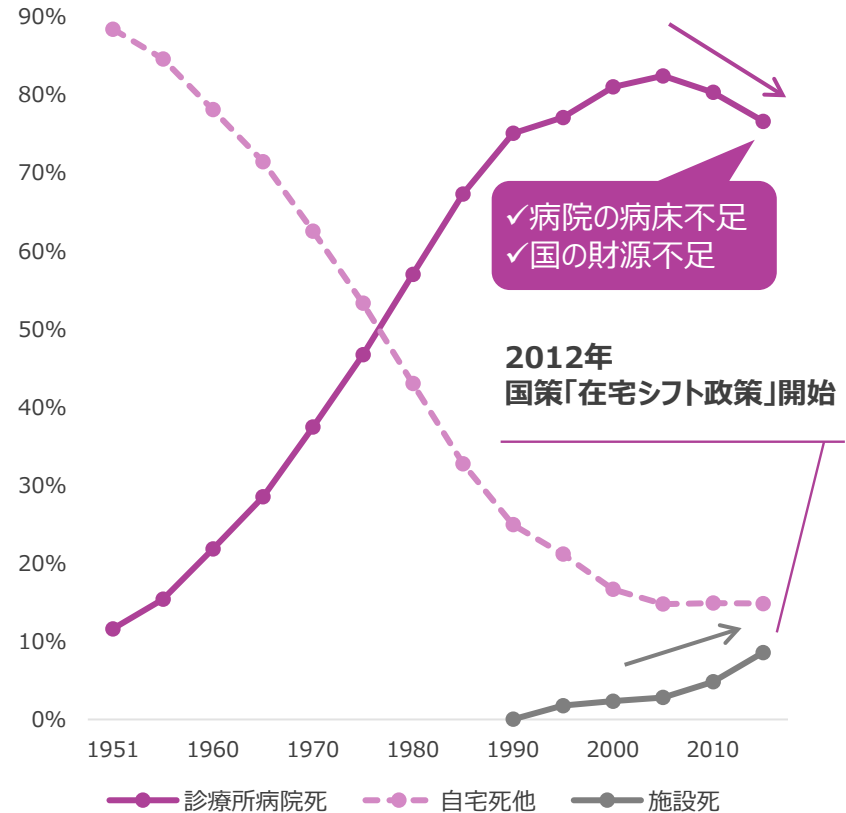
(万人)

1.3倍に増加



出所：厚生労働省 死因簡単分類別に見た性別死亡数・死亡率（人口10万対）

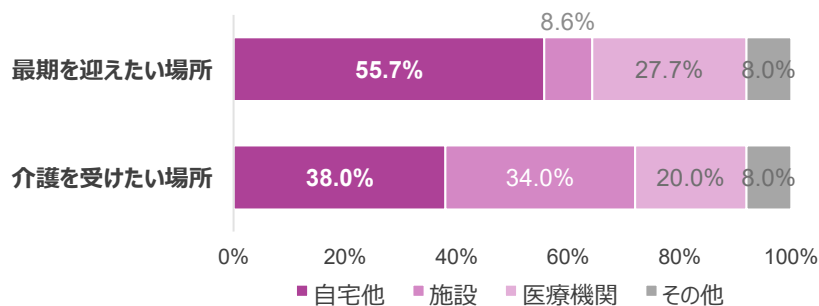
死亡場所(構成比)の年次推移



出所：厚生労働省「平成27年人口動態統計（確定数）の概況」

看取り場所は「在宅シフト」～病床は2025年に30万床不足へ

高齢者の意識調査*



出所：内閣府 平成24年高齢者の健康に関する意識調査

フレアスの得意とする在宅領域の
需要が今後も見込める状況

- ◆ 最期を自宅で過ごしたい方が55.7%
- ◆ 国は在宅シフト政策を推進し、病床数減少が続く
- ◆ 終末期のがんやALS等の痛みで在宅療養が困難な方の受け皿が必要となる

ホスピス需要増

- ◆ ホスピス市場はまだ競争も少なく、ブルーオーシャンである

*出所：厚生労働省「平成29年6月30日第11回医療計画の見直し等に関する検討会」資料

**高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる包括的な地域支援・サービス提供体制

療養から看取りまでカバーすることで、
在宅領域を総合的に支援する企業を目指す

マッサージ

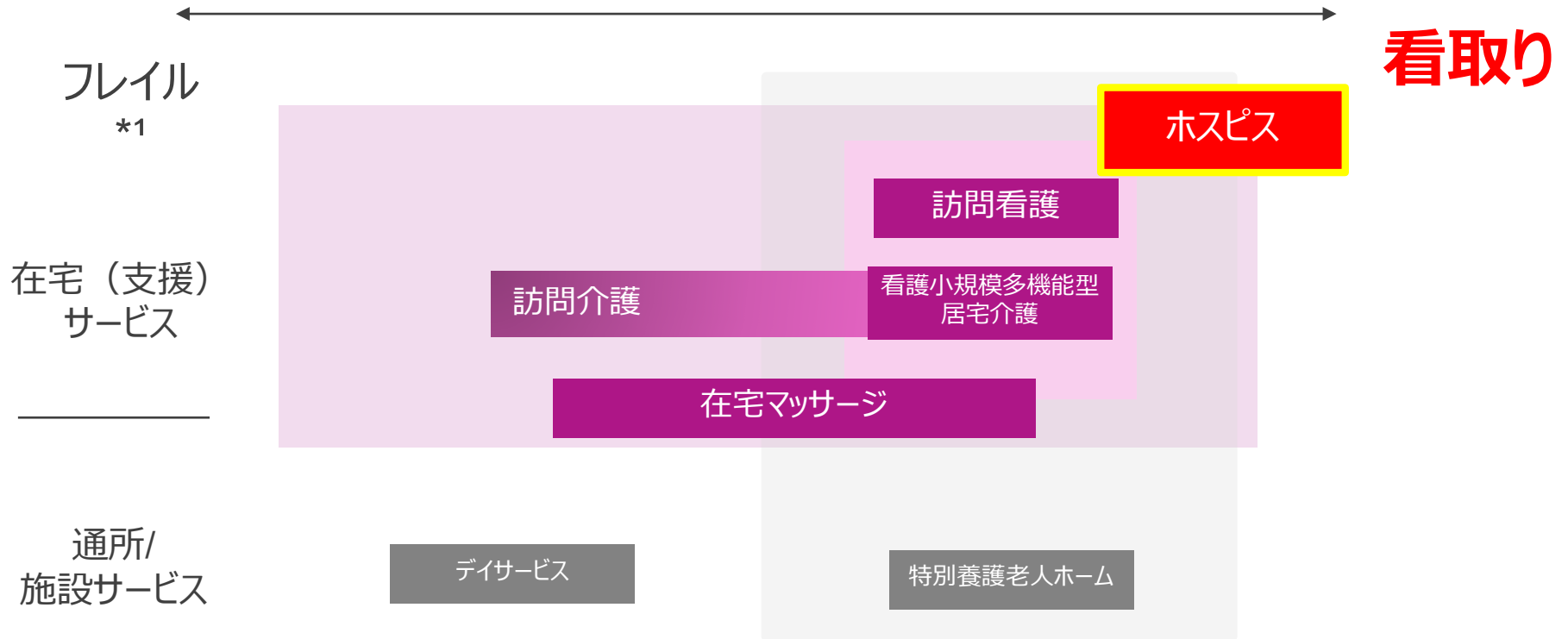


療養から看取りまで
総合的に支援する会社へ

死の概念を変える



重篤度



*1 フレイル：加齢より体力や気力が弱まっている状態

2024年3月期6月～『ホスピス事業開始！』

4拠点開設予定



※ホスピスの入居者の約60%が要介護4・5

フレアスが提供するホスピスとは

- 末期がんや完治の見込みのない病気等で余命が限られた方に穏やかな最期を迎えていただくためのケアを行う居住型施設で、24時間、看護師や介護士が常駐・訪問しサービスを提供します。



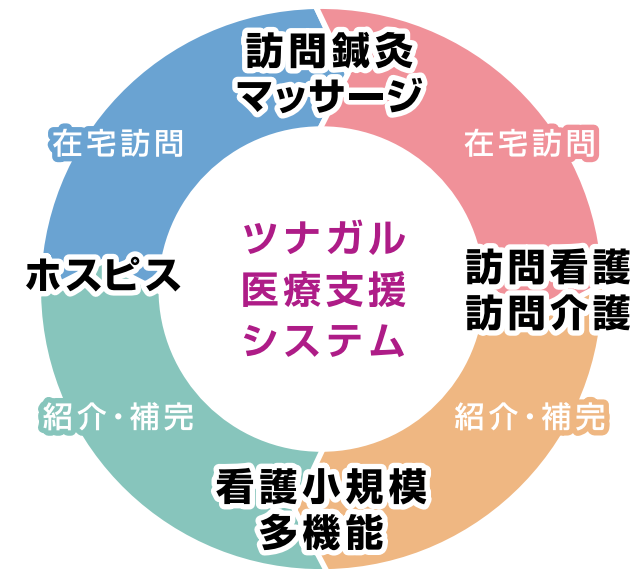
ご利用者様やご家族の状態に合わせて、フレアスの複数あるサービスを組み合わせることで提供することが可能

訪問鍼灸マッサージ・訪問看護・訪問介護・
看護小規模多機能型居宅介護と連携し、

「痛みの緩和の選択肢の多いホスピス」

「非日常（ハレ）の時間をプロデュースするホスピス」

を目指し、「痛みの緩和」と「心地よさ」を提供



ターミナルケアを必要とする方の第2の自宅として最期を過ごしてもらおう

痛みの緩和の選択肢



鍼灸による疼痛緩和

フレアスが長年にわたり研鑽を積んできた鍼灸治療 (総合医療として国内外の医療施設で実践されている) で痛みを軽減し、ご入居者が質の高い日常生活を送れるよう支えています。

マッサージによる疼痛緩和

フレアスが得意とする技術をマッサージスタッフの優しい手でご入居者の痛みを和らげ、心地よい時間を作り出します。

非日常をプロデュース



人生最期の感動をプロデュース

一人でも多くの人に「悔いのない人生だった」と言ってもらえるよう、スタッフ全員で取り組みます。

感動レクリエーションの開催

健康体操、ヘアメイク、アロマテラピーなど、フレアスには多彩な能力を持ったスタッフが多数在籍しています。スタッフの能力を活かしたレクリエーションを企画・開催し、人生最期の大切な時間を感動あふれる時間にしていきます。

- 経営環境及び財務状況等を勘案の上、業績に応じた利益還元を今後も継続する予定。

株主配当

◎ 対象者

3月期末時点100株以上保有者

◎ 配当性向

目標20%

◎ 株主配当実績

1株あたり10円57銭（2022年3月期）



APPENDIX

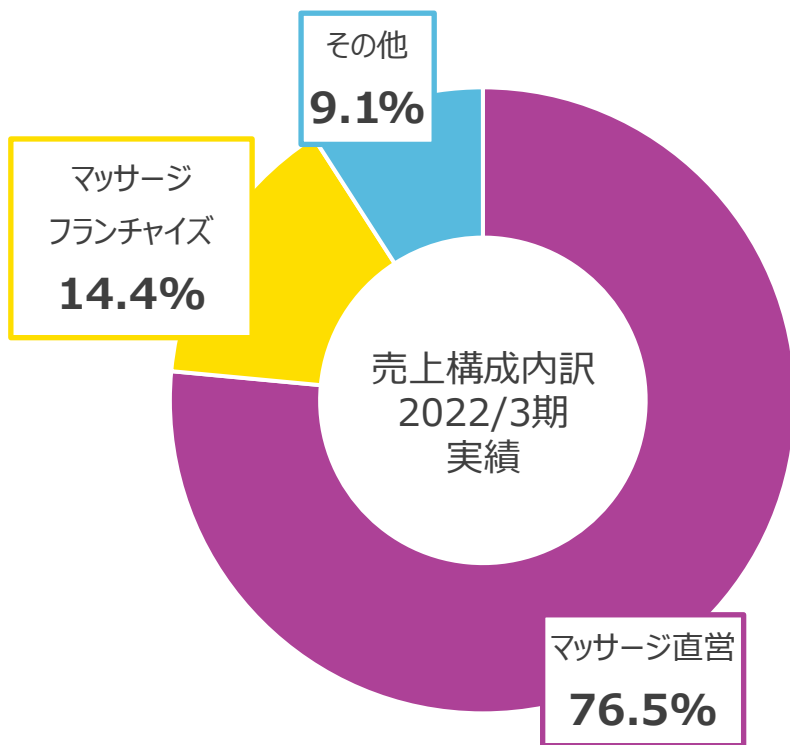




社名	株式会社フレアス Fureasu Co.,Ltd.
代表者	代表取締役社長CEO 澤登 拓
創業年月	2000年7月（設立：2002年4月）
上場	2019年3月
本店所在地	山梨県中巨摩郡昭和町西条1514番地
本社所在地	東京都品川区西五反田2丁目27-3 A-PLACE五反田ビル3階
資本金	295,722（千円）〔2022年6月30日現在〕
事業内容	・マッサージ直営事業 ・マッサージフランチャイズ事業 ・その他の事業
売上規模	4,174,557（千円）〔2022年3月期〕
従業員数	685名〔2022年6月30日現在〕
拠点	372拠点：在宅マッサージ361、訪問看護8、訪問介護2 看護小規模多機能型居宅介護1 〔2022年6月30日現在〕
連結総資産	3,270,704（千円）〔2022年6月30日現在〕

* 上記事業数及び事業所のある都道府県には、FC事業者により運営されている278事業所を含む

- 当社事業の9割超はマッサージ事業。活動困難者(介助なしで通院が困難な方 以下同)が対象。医師の指示・同意に基づいてサービスを提供
- その他の事業で訪問看護及び介護などを実施、新たに看護小規模多機能型居宅介護事業も開始



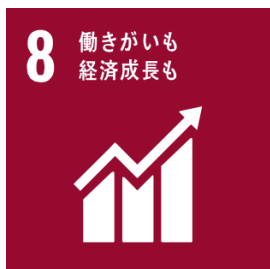
マッサージ直営・マッサージフランチャイズ事業

- 在宅療養者を対象に、医師の指示・同意に基づいて、訪問マッサージ(医業類似行為)を提供
 - ・ 事業所数：354拠点（FC含む、2022/3末現在）
 - ・ 屋号：「フレアス在宅マッサージ」「レイス治療院」

その他の事業

- 利用者宅や高齢者施設等への訪問看護事業が主体
- 訪問看護・介護ステーション・看護小規模多機能型居宅介護事業所を運営(11拠点、2022/3末現在)。高齢や疾病・負傷・障害による在宅療養患者に対し、医師の指示・同意に基づいて、看護を提供
- 「理学療法士」による訪問リハビリテーションも展開

- 盲学校へのリクルーティングを積極的に行い、自立支援を促し、第一線で戦力としての活躍する場を提供

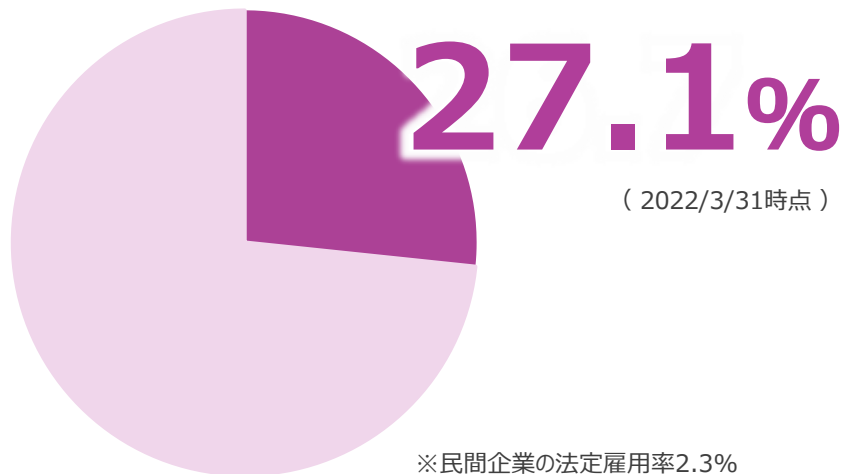


音声読み上げ機能のついた電子機器や補助器具を貸与

パソコン（PCTカー）、携帯電話（らくらくホン）、iPad、拡大鏡など



当社の障がい者雇用比率



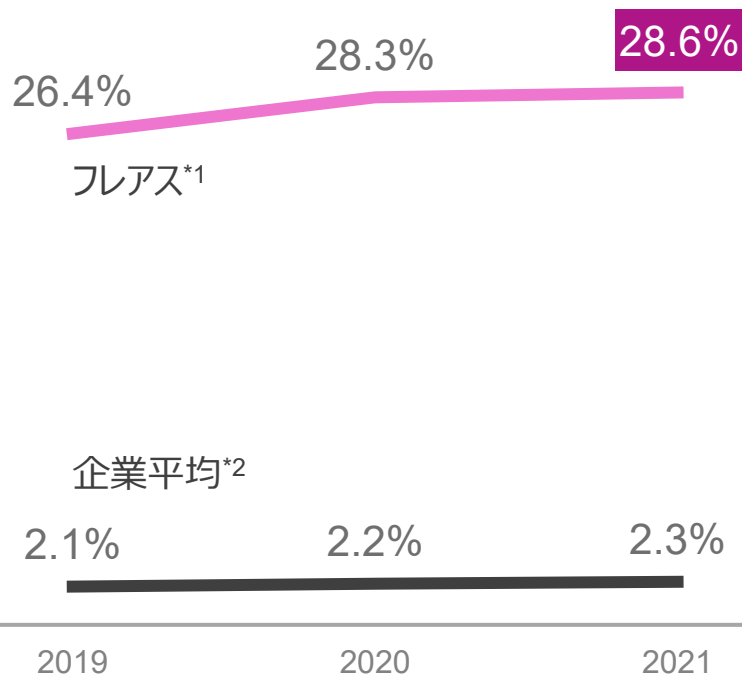
※民間企業の法定雇用率2.3%

従業員が一定数以上の規模の事業主は、従業員に占める身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者の割合を「法定雇用率」以上にすることを義務付けられています。(障害者雇用促進法43条第1項)



- 視覚障がい者を中心に積極的に雇用しており、これからも働きやすい環境づくりを進める

在宅マッサージ直営事業における
障がい者雇用率の推移*1



働きやすさに関する取り組み例

ViXion
HOYA MW10 HiKARI
fureasu
ViXion社 共同開発オプション / fureasu PLAN



視覚障がい者の施術業務をサポートするために、
“暗所視支援眼鏡ウェアラブルデバイス（MW10）”を
活用した、施術業務支援ツールを共同開発

<https://fureasu.jp/business/massage/visually-impaired-support/service/>

*1 各年7月1日時点
*2 雇用義務のある全企業

出所：厚生労働省,障害者雇用状況の集計結果,令和元年・令和2年

年月	内容
2000年7月	山梨県南巨摩郡増穂町にふれあい住宅マッサージを創業し、訪問マッサージ事業開始
2002年4月	訪問マッサージ事業を事業目的とし、山梨県甲府市に「有限会社ふれあい在宅マッサージ」を設立
2005年4月	「有限会社ふれあい在宅マッサージ」を「株式会社ふれあい在宅マッサージ」に組織変更
2011年1月	ダイヤモンド社より特別賞受賞
3月	東京都港区に東京本部を開設
4月	「株式会社フレアス」に商号変更
12月	株式会社セイジョンより訪問看護事業の営業を譲り受け、訪問看護事業を開始
2012年8月	山梨県甲府市にて訪問歯科診療サポート事業を開始
2014年6月	株式会社ピーアンドエヌより訪問看護事業の営業譲受
11月	やまなし産業大賞 受賞
2016年6月	本店所在地を山梨県中巨摩郡昭和町西条に移転
6月	東京本部の名称を東京本社に変更
2017年4月	株式会社星野リゾートと業務委託契約を締結し、ホテルブランド「界」でのマッサージサービス提供を開始
2018年3月	星野リゾート「リゾナーレ八ヶ岳」でのオイルマッサージ(VINO SPA)サービス提供を開始
2019年1月	個人情報保護に関する第三者認証制度JAPHICマーク及びJAPHICメディカルマークを認定取得
2019年3月	東証マザーズ上場
2019年7月	保険適用マッサージサービスに係るフランチャイズの本格展開を開始
2020年6月	株式会社レイスヘルスケアより新設分割された株式会社オルテンシアハーモニーの株式を取得し子会社化
2021年4月	スカイハート株式会社の株式を取得し子会社化
2022年3月	看護小規模多機能型居宅介護事業を開始

決算年月		2014/3	2015/3	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3
売上高	(千円)	2,335,817	2,594,076	2,744,444	2,900,404	3,284,979	3,711,638	3,962,577	3,672,197	4,174,557
経常利益	(千円)	88,908	61,848	88,468	194,400	193,759	313,003	119,700	102,695	223,190
親会社株主に帰属する当期純利益 又は 当期純利益	(千円)	2,169	36,820	52,727	177,869	109,912	176,563	56,879	59,320	147,853
資本金	(千円)	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	222,750	289,638	290,394	291,924
発行済株式総数	(株)	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000	2,250,000	2,328,600	2,332,600	2,336,600
純資産額	(千円)	327,764	364,584	417,312	595,181	705,094	1,307,158	1,497,815	1,559,357	1,718,935
総資産額	(千円)	1,165,691	1,134,022	1,353,270	1,588,572	1,973,936	2,491,623	2,505,483	3,189,895	3,390,360
1株当たり純資産額	(円)	327,764.25	364,584.60	417,312.53	297.59	352.55	580.96	643.23	668.20	731.63
1株当たり当期純利益	(円)	2,169.64	36,820.36	52,727.93	88.93	54.96	88.16	24.48	25.44	63.30
自己資本比率	(%)	28.12	32.15	30.84	37.47	35.72	52.46	59.8	48.9	50.4
自己資本利益率	(%)	0.66	10.64	13.49	35.13	16.91	17.55	4.1	3.9	8.6
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)				184,096	▲39,574	292,433	▲99,729	▲99,964	309,270
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)				116,238	▲57,067	▲14,278	▲193,330	▲296,836	▲149,467
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)				▲68,193	379,442	168,071	82,128	464,349	▲160,972
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)				629,738	912,537	1,358,764	1,147,832	1,215,381	1,214,211
従業員数 (内、平均臨時雇用者数)	(名)	491 (-)	541 (-)	534 (-)	582 (173)	615 (167)	617 (178)	672 (180)	593 (150)	625 (166)

* 2021/3期より連結財務諸表を作成しているため、2020/3期以前は参考情報として個別財務諸表に基づく数値を記載

* 2018年2月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を実施、また、2019年1月8日付で普通株式1株につき20株の株式分割を実施。

2017/3期の期首に株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり純利益金額を計算

日程	経緯
2022年7月	首都圏にあるA事業所の人員体制の変更を行い、営業業務と事務業務の兼務を解消するため、新たな事務業務担当者を配置。
2022年7月29日	2022年7月29日に同事務業務担当者が売上報告をするために使用する書類を確認した際に、前任のA氏による不正が疑われる書類を発見し、上長に報告、同日、A氏へのヒアリングを行った結果、不正を認める発言を受ける。
2022年7月29日 ～ 2022年8月9日	社内によるA事業所の書類精査やA氏への複数回のヒアリングを行った結果、2019年7月から2022年7月までの間に総額6,647千円の不正な売上報告がなされていることが判明。
2022年8月15日 ～ 2022年8月22日	過去にA事業所のように営業業務と事務業務の兼務をしていた2事業所の追加調査を行い、売上報告資料の不正行為がなかったことを確認し、監査法人による四半期レビュー報告書を受領。
2022年8月22日	決算発表

(1) 現状の問題点

- ① 営業業務と事務業務の兼務体制のリスクを認識し、取り組みを行いながら徹底できていない環境を容認していたこと。
- ② 事業所での資料保管を前提としていたこと。
- ③ 本社機能による二重チェックの仕組みが構築できていなかったこと。

(2) 事業所の体制・統制環境の見直し

- ① 営業業務担当者と事務業務担当者の分離を徹底し、内部牽制を強化する。
- ② 売上報告資料について、事業所内での確認・保管としていたフローを見直し、速やかにPDFファイルを作成・サーバに保管し、本部で閲覧可能な状態にするフローを追加する。

(3) 役員・その他管理部門等の体制・統制環境の見直し

- ① 本部サポートセンターの担当者は、事業所の事務業務担当者がデータ化し提出した売上報告資料について、新規サービス開始分に関しては全件チェック、継続サービス分については、一定数のサンプルチェックを行い、継続的に不正が無いことを確認し、確認結果及び対象資料を財務経理部へ提出する。
- ② ①にて提出された売上報告資料を本社財務経理部にて再確認を行う。
- ③ ②の実施内容・売上報告資料について、本社内部監査室が適時確認を行う。
- ④ 本社内部監査室の事業所往査実施に際し、ランダムに売上報告資料のサンプルチェックを行う。

(4) 再発防止策の実施及びモニタリングについて

2022年8月より、上記施策を推進し、着実に実行し、進捗状況を適宜取締役会にて報告を行い、適切なモニタリングも実施してまいります。

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、
将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

<お問い合わせ先>
株式会社フレアス
03-6632-9210
ir@fureasu.jp